みんなでささえ合って

熊本市立健軍小学校二年　坂本　結菜

わたしは、くま本しのなんちょう学きゅうの二年生です。学校のじゅぎょうはこくごだけでなんちょう学きゅうでうけて、そのほかのじゅぎょうは二年四くみでうけています。

学校生かつの中で先生やおともだちに、いろいろとたすけてもらっています。うんどう会のれんしゅうの時に先生がとおくにいたのを、つぎになにをするかが分かりませんでした。その時にクラスのともだちがわたしのかたをたたいて、教えてくれました。わたしが分からないということに気づいてくれたのがとてもうれしかったです。

わたしの学校には、いろいろなしょうがいをもったともだちや先ぱいがいます。みんなでもったりさえ合えたら、みんながしあわせな時に、みんながやさしい気もちで、見まもったり、さえ合えたら、みんながしあわせな時には、こまることがあるかもしれません。

そんな時に、みんながやさしい気もちで、見まもったり、さえ合えたら、みんながしあわせな時には、こまることがあるかもしれません。

まい日元気に学校にかよっています。でも、

せなきもちになれると思います。らい年わたしのこうはいが入学してきます。きっとふあんなことがあると思うので、先ぱいとしておうえんしていきたいと思います。

わたしはこの町が大すきです。学校に行く時に見まもりボランティアのかたが、いろんなところでわたしたちのあんぜんを見まもってくれています。なのであんしんして学校に行くことができます。わたしもまわりの人にかんしゃの気持ちをわすれずに、みんなでさえ合ってたのしくすごしていきたいです。

出会い・ふれあい・心の輪

熊本市立碩台小学校五年　古川　理絢

私が、障がい者と初めて出会ったのは、十一年前。もう私が生まれた時には出会っていた。私の兄は、ダウンしょうという障がいを持っている。今は、十六才だ。兄が五才の時に私が生まれた。私が六才の時、気づいた。

「お兄ちゃんは私より、どうして、勉強が出来ないのか、どうして、小学校の時のクラスは、みんなとちがう特別なクラスなのか」不思議に思った。私は、母に聞いてみた。母は言った。

「ダウンしょうという障がいを持っているんだよ。」

「どんな、病気なの？」私はもっと聞いてみた。「言葉をうまく話せず、どもってしまったり、ふつうの人と、顔がちがったり…」と色々な事を教えてもらった。その話を聞いて思った。

「その、病気は治るの？」母は、

「治らないよ。でも、治らなくてもいいと思

うな。」と母は言った。

「治らない方がいい？どうして治らない方がいいの。」とその時、疑問に思った。

それから、四年。私は十才、兄は十五才になった。私は、ダウンしょうについて調べてみるとダウンしょうは、治らないという事は分かったが、他に書いてあった事は、分からなかった。「兄の病気は治らないのかなぁ。」

その時、母の言ったことを思い出した。

「治らなくてもいいと思う。」といった事を。

私は、思った。治らなくてもいいという事を。

それだけ、大切なそん在なんだという事が知れた。

たしかに、兄のおかげで、たくさんの事が知れにでもやさしくすること。いやな事があっても、ガマンする事。そして、家族を大切にする事。他にも色々な事を教えてもらった。

生活をしていく中で、障がい者の人とくらすという事は、むずかしい事なんだと

分かった。ちゃんと、言葉を話さない事からときどき、わざとしているように思いイラッとして、おこった事もあった。でも兄は、何をするにも真けんに取り組み、言葉を、言うのも、一生けんめいがんばっていた。がんばっているというのは、分かっているがついつい、言ってしまう。「おかしいそのしゃべり方。」と強く言った後の兄の顔は、とても、おこっている顔だった。今思うと、なんであんな事をいったんだろうと、こうかいしている。

兄は、私を、どう思っているのかは、分からないが、良く思ってくれたら私はうれしい。私は、兄の事をいつまでも大切にして、大好きでいようと思った。

人は宿題を持っている

熊本市立託麻南小学校六年　横田　実乃里

お母さんが私と会話した中で一番気に入っている話を、残しておきたいからこの作文を書くことにしました。

私は、小さいころ話した内容をあまりおぼえていなかったので、お母さんに聞きました。

「お母さんあのね、生まれる時に神さまは、みんなに宿題をあげるんだよ。」実乃里と真実みたいに生まれたときから宿題をあけて、お母さんやお父さんに手伝ってもらう人もいるし、おじちゃんぐらいになってから、宿題を開けて入院する人もいるんだよ。だからね、子どものころ宿題が無い人もいるんだよ。

宿題が無い人はね、がんばらなきゃいけないんだよ。宿題が無いワーイワーイとしていると変な大人になるんだよ。宿題が無い子は、宿題があると子に、宿題いっしょにしようと言って、いっしょに勉強しないといけないんだよ。じゃなかったら大人になって宿題を開け

た時、大人らしく宿題ができないんだよ。」

お母さんの宿題はなあに？開けていないの。」

実乃里の宿題見せてあげるから、がんばってね。」

「

と話したそうです。

私は、この宿題について、友達と話していたとき気づいた事が二つあります。

一つ目は、宿題の中みは、一人一人ちがうということです。

二つ目は、宿題をまだ開けてない人の中には、自分の中に宿題があるということをしらない人もいるということです。

一つ目の宿題の中みについては、私と妹の宿題はちがうし、生まれてすぐ宿題を開けて心臓が悪かった子もいます。また、おじいさん、おばあさんくらいになり宿題を開けて、それが脳梗塞や認知症などで、入院する人もいます。宿題は、開ける時期も一人一人ちがうし、内容も人それぞれだから、宿題は、個性であり、みんなちがってみんないいと思っ

てました。でも、おじいちゃん、おばあちゃんになって宿題を開けたひとにしてみれば、個性なんて思えないと思います。それに、子どもだって、宿題のことで、バカにされたらたまったものではありません。

二つ目の、宿題が自分の中にあることを知らない人は、やさしく手伝う中でいっしょに勉強をしている人と、宿題がある人をさけたり、しらんぷりする人と、大きく二つに分かれると思います。

宿題がある人をさけたりする人へ伝えたいことや、うまくできなくて、くやしい気持ちの時があるのです。それに対して、バカにしたり、さけられたりしたら、もっと苦しいし、くやしくなるし、宿題のことをきらいになることや、うまくできなくて、くやしい気持ちの時があるのです。

私は、人が宿題をもっていると言う事を、みんなに知ってもらい、一人でも、いじめやバカにすることを減らせればうれしいと思っています。

てこの事を残したいと思いました。

私は今、自分の宿題を頑張っています。こ

れは妹のとはちがいます。一人一人ちがう宿

題だから、これからもいろいろな人の宿題も

いっしょに勉強していきたいと思います。

20 × 20